

大学生の原風景からみた海浜の景観構成に関する研究*

A Study on the Composition in the Beach from the Original Scenery of the University Students

三溝裕之¹ 横内憲久² 桜井慎一³ 岡田智秀⁴ 榎尾あゆみ⁵ 矢込亜希子⁶

By Hiroyuki Samizo, Norihisa Yokouchi, Shin-ichi Sakurai, Tomohide Okada, Ayumi Makio and Akiko Yagome

1. 研究目的

白砂青松や長汀曲浦と代表されるように、わが国の自然海浜は個性豊かな景観が名所図会や和歌等により讃えられ、それはわが国の原風景の一つであった。このような原風景は、幾世代もの人々が時代を越えて共有してきたわが国の文化的財産であるため、後世の人々にも継承させていくべきと考える。

これまで筆者らは、現代の海浜を体験した大学生の原風景を捉えた結果、その姿がかつて讃えられていた原風景から徐々に変容してきている状況や大学生の原風景は実体験を契機として形成されていること等を明らかにした。¹⁾しかし、そのような原風景は何によりもたらされているのか、その形成要因までは論及していない。

そこで、本研究では、かつての自然海浜を原風景として継承させていくために、実体験により形成された大学生の原風景とそれが形成された実空間(海浜)とを比較考察することにより、原風景と現実の海浜空間との関連性を明らかにするとともに、景観要素の有無および現地に存在するにもかかわらず、原風景に出現しない景観要素を把握することを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、大学生の原風景が形成された(スケッチに描かれた)海浜に現存する景観要素を捉える

*キーワード：景観、イメージ分析、原風景

- 1 学生会員 日本大学大学院 理工学研究科海洋建築工學専攻
 (〒274 千葉県船橋市習志野台 7-24-1.TEL&FAX: 0474-69-5427【自動切替】)
 2 正会員 工博 日本大学教授 理工学部海洋建築工学科
 3 正会員 工博 日本大学専任講師 理工学部海洋建築工学科
 4 正会員 工博 日本大学研究生 理工学部海洋建築工学科
 5 (株)横山建築構造設計事務所
 6 加和大建設株式会社 建築部

ために、調査員3名による現地踏査を行い、景観要素の有無や形態的特徴等を確認した。また、原風景が形成された当時の海浜状況を把握するために行政へのヒアリング調査、さらに対象海浜の確認等を行うために被験者へのヒアリング調査を実施した。調査は、海浜の原風景をスケッチに描いた日本大学理工学部海洋建築工学科の学生208名のうち原風景が

表-1 調査概要

調査方法	① 調査員(3名)による現地踏査 ② 行政へのヒアリング調査 ③ 被験者へのヒアリング調査
調査期間	1996年 8~12月
被験者数	日本大学理工学部海洋建築工学科の学生 93名
スケッチ数	54枚
調査内容	①・スケッチが描かれた視点場および視線方向の確認 ・海浜を構成する景観要素とその形式的特徴の把握 ・被験者が描いたスケッチと現地に存在する景観要素の把握および形態的特徴の同一性の確認 ② 原風景が形成された当時の海浜状況の把握 ③・スケッチに描かれた対象海浜の確認 ・スケッチに描かれた海浜の来方回数・時期・時間等

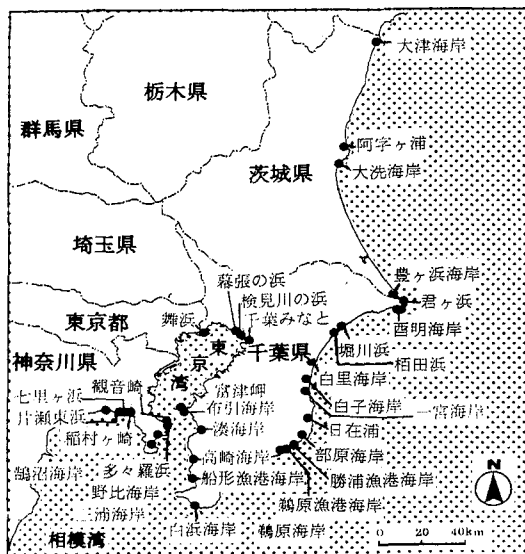


図-1 調査対象海浜 【34海浜】

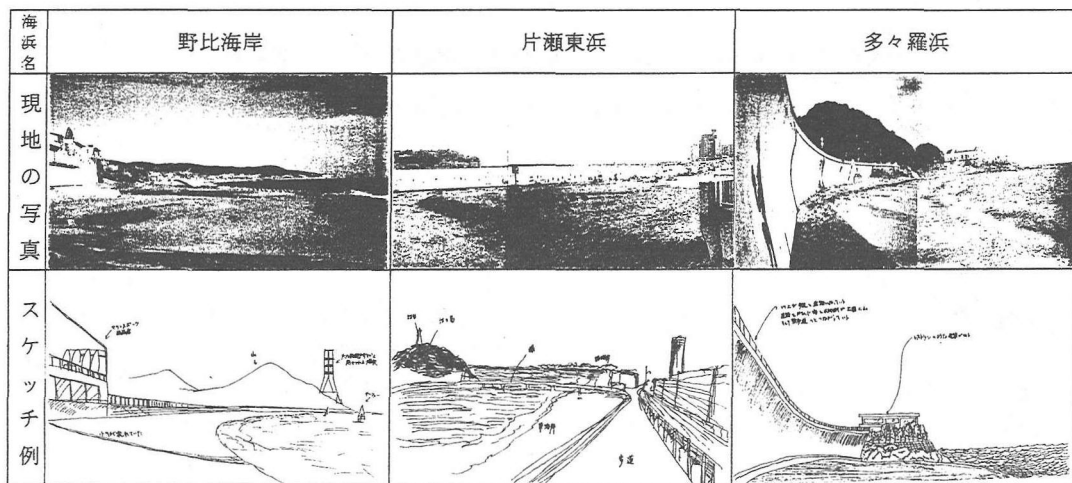


図-2 現地の写真と被験者が描いたスケッチ例

実体験に基づいて形成されたとした海滨(96 海滨)の中から、関東三県(神奈川、千葉、茨城)の 34 海滨を対象とした。なお、この 34 海滨を原風景として描いたスケッチ数は 54 枚である。また、調査概要、調査対象海滨については表-1 および図-1 に示すとおりである。

3. 結果および考察

(1) 大学生の原風景と現地の同一性

図-2 は、スケッチがどの程度現地の状況を忠実に描いているかを捉えるために、現地の写真と被験者が描いた典型的なスケッチ例を示したものである。たとえば「野比海岸」は建築物、弓なりに大きく湾曲した汀線・砂浜とその止めとなる岬といった要素が実存するが、それらはスケッチ例をみても位置、形態がほぼ一致して描かれていることがわかる。また、「片瀬東浜」においては、沖合に向かって突出したトンボロ状の汀線・砂浜、その止めとなる江ノ島、海滨背後に存在する建築物が同様に描かれていることがわかる。一方、「多々羅浜」においては、海に向かって突出した岬、またその先端に位置する建築物、切り立った護岸などはスケッチにおいて同一に描かれているものの、現地に存在する汀線・砂浜は凹状に湾曲しているにもかかわらず、スケッチでは沖合に向け凸状に描かれていることがわかる。

以上、このような方法により、34 海滨の現地踏査

表-2 現地とスケッチの一致性の比較 【単位: 枚(%)】

近 似	相 違	不 明	合 計
43(79.6)	9(16.7)	2(3.7)	54(100.0)

を通じて、現地とスケッチとを比較考察した結果をまとめたものが表-2 である。なお、表中の「近似」とは、図-2 で示した野比海岸、片瀬東浜のように現地に存在する景観要素とスケッチに描かれた要素において位置および形態が概ね一致するものを示し、「相違」とは、多々羅浜のように現地とスケッチが同一の海滨でありながら景観要素の位置、形態が変形して描かれているものを、また「不明」とは、現地とスケッチとの景観要素・構成が異なり、スケッチの対象となった海滨と特定することができなかったものを意味している。

これをみると、大学生の原風景は「近似」が約 8 割を占めていることがわかり、このことから、実体験に基づいて形成された原風景のスケッチは現地の空間構成をほぼ忠実に再現していることが把握できた。

(2) 原風景を構成している景観要素の出現傾向

表-2 における「近似」と「相違」の合計である 52 枚のスケッチ別に原風景が形成された海滨に存在する景観要素と原風景に出現した景観要素をまとめたものが表-3 である。なお、表中の記号は、原風景が形成された海滨に景観要素が存在していることを、また黒色の印(●・▲・■)はスケッチに描かれたこ

表-3 原風景が形成された海浜の景観要素とスケッチへの出現

【単位：%】

対象海浜	判定	自然海浜の12要素												人工要素								出現率
		離れ岩	汀線	砂浜	島	西眺水域	岬	磯	松林	日和山	背山	離れ松	潮見坂	出現率	突堤	護岸	道路	建築物	消波工	離岸堤	出現率	
一宮海岸	近似	▲	▲			△							50.0	○	○	○	○				0.0	
栢田浜		▲	▲						▲				100.0	○	○	○	○				0.0	
横見川の浜		▲	▲			▲			▲				100.0	●	○	○	○	○			60.0	
		▲	▲			△			△				50.0	●	○	○	○	○			20.0	
千葉みなと		▲	▲			▲			△				75.0	●	○	○	○	○			20.0	
		▲	▲			▲			▲				100.0	○	●	○	○		○		25.0	
大洗海岸		▲	▲					●			○		○	60.0	○	○	○	○			0.0	
		▲	▲					●			○		○	60.0	○	○	○	○			0.0	
日在浦		▲	△					●			○		○	40.0	○	○	○	○			0.0	
		▲	▲				○		△				50.0	○	○			○	○		0.0	
豊ヶ浜海岸		▲	▲						△					66.7			○		○		0.0	
白子海岸		▲	▲						△					66.7			○	○			0.0	
白星海岸		▲	▲											100.0			○	○			0.0	
富津岬		▲	▲	○					△			△		40.0	○	●	○		○		25.0	
布引海岸		▲	▲						△					66.7	○		●	●	○	○	40.0	
堀川浜		▲	▲						△					66.7			○	○	●		50.0	
幕張の浜		▲	▲			△			△					50.0	○	○	○	○	○		0.0	
		△	△			▲			△					25.0	●	●	○	○	○	●	60.0	
舞浜		△												0.0	●	○	○	○	○	●	40.0	
稲村ヶ崎		●	●	○		●	●				○	○		57.1		○	○	○			0.0	
	●	●	○		●	●				●	○		71.4		●	●	●	○		66.7		
親音崎	●	●	●		●	●	○			●			85.7	●	●	●	●	○		100.0		
七里ヶ浜	●	●	●		●	●				○		○	71.4	●	●	●	●			100.0		
野比海岸	●	●	●		●	●				○		○	75.0		○	○	○			66.7		
鶴原海岸	●	●	●		●	●				○			80.0		○	○	○	○		50.0		
船形漁港海岸	●	●	●	●	●	●	●		○	○		○	66.7	○	○	○	○	○		25.0		
船形漁港海岸	●	●	●	●	●	●	●		○	○		○	62.5	●	○	○	○	○		20.0		
西明海岸	●	●			●	●	●		○	○		○	57.1		○	○	○	○		0.0		
西明海岸	●	●			●	●	●		○	○		○	42.9		○	○	○	○		0.0		
勝浦漁港海岸	●	●	●		●	●	●		○	○			71.4	●						100.0		
邸原海岸	●	●	●		●	●				○			80.0			○	○	○	○	50.0		
三浦海岸	●	●	●		●	●							100.0	○	●	●	●	○	○	40.0		
片瀬東浜	●	●	●	●	●	○							80.0	○	○	○	○			75.0		
	●	●	●	●	●	○							80.0	○	○	○	○			75.0		
鶴沼海岸	●	●	●	●	●	○							80.0	○	○	○	○			50.0		
	●	●	●	●	●	○			△				80.0	○	○	○	○			0.0		
大津海岸	●	●	●	●	●			△					80.0	○	○	○	○			0.0		
	●	●	●	●	●			△					100.0	○	○	○	○			50.0		
多々羅浜	○	○			○	●	○			○			16.7		○	○	○			0.0		
鶴沼海岸	○	○	●		○			△					20.0	○	○	○	○			25.0		
阿字ヶ浦	■	■			■	○	○	△	○	○		△	42.9	●	○	○	○	○	●	40.0		
君ヶ浜	■	■			■	○	○	△	○	○	△	△	40.0	●	○	○	○	○		40.0		
	■	■			■	○	○	▲	○	○	△	△	40.0	●	○	○	○	○		20.0		
多々羅浜	■	■			■	○	○			○			83.3	●	○	○	○	○		66.7		
鶴原漁港海岸	■	■			○	○	○			○			50.0	●	○	○	○			25.0		
浜海岸	■	■			○			△		○			33.3	●	○	○	○	○	●	40.0		
片瀬東浜	■	■	○		○	○							40.0	●	○	○	○			25.0		
白浜海岸	■	■	●		○	○	○						42.9		○	○				0.0		
高峰海岸	■	■			○	○	○	△		○			28.6	○	○	○	○	○	●	20.0		
要素別出現率		100.0	92.3	91.7	76.5	75.0	64.3	46.7	20.0	20.0	4.2	0.0	0.0	61.6	50.0	37.2	26.5	24.4	22.7	0.0	30.9	

【凡例】

- ：対象海浜において形態の特徴が自然海浜と一致している要素、また人工要素においては存在している要素
 △：対象海浜において形態の特徴が自然海浜と相違している要素
 ●：対象海浜およびスケッチにおいて、形態の特徴が自然海浜と一致している要素、また人工要素においては出現している要素
 ▲：対象海浜およびスケッチにおいて、形態の特徴が自然海浜と相違している要素
 ■：対象海浜において形態の特徴が自然海浜と一致しているが、スケッチにおいて相違している要素

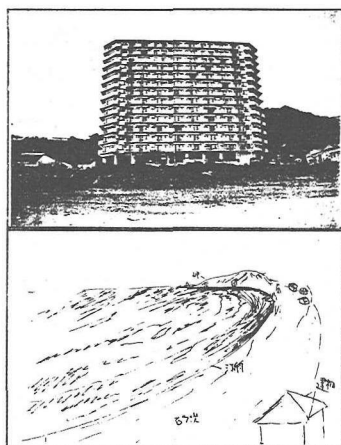


図-3 稜線を分断する建築物(写真)とそれにより背山が描かれなかったスケッチ例

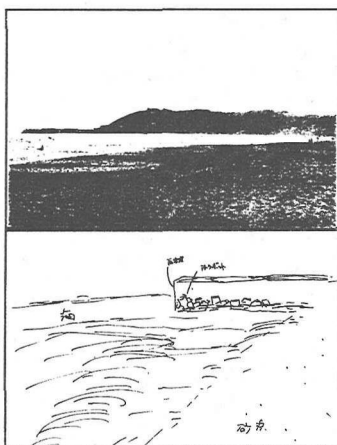


図-4 海域方向に設置された巨大な突堤(写真)とそれを描いたスケッチ例

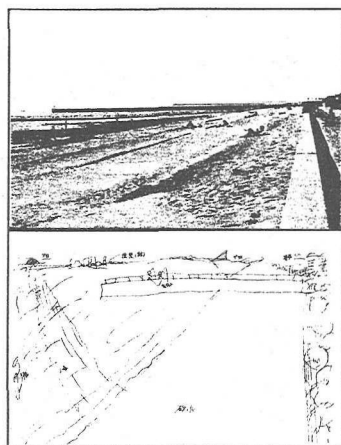


図-5 長大な突堤・護岸(写真)とそれを描いたスケッチ例

とを示しており、空欄は対象海浜に景観要素が存在しないことを意味している。ここで、「自然海浜の12要素」²⁾(以下、文中では自然要素)とは古来より図会や和歌等で讃えられた自然海浜の景観要素を意味している。また、表中の出現率とは被験者別に当該海浜において自然要素または人工要素が原風景に出現した割合を示し、棒グラフで表した要素別出現率とは「離れ岩」「汀線」といった景観要素ごとに原風景への出現の割合を示したものである。

表-3をみると、自然要素の要素別出現率は61.6%であり、これに対して人工要素は30.9%であることから、自然要素は人工要素よりも原風景に出現しやすい傾向がみられ、大学生の原風景は自然要素が中心となって構成されていることがわかる。

次に、これらの自然要素および人工要素において如何なる景観要素が原風景を構成しているのかを明らかにし、その要因を考察する。なお、図-3～5は現地の写真とスケッチの典型例である。

表-3において自然要素のスケッチへの出現をみると、要素別出現率が7割以上と相対的に高い要素は、「離れ岩」(100.0%)、「汀線」(92.3%)、「砂浜」(91.7%)、「島」(76.5%)、「囲繞水域」(75.0%)である。しかし、現地に存在するにもかかわらず、ほとんど出現しない要素としては「背山」(4.2%)、「離れ松」(0.0%)、「潮見坂」(0.0%)が挙げられる。これらが出現しない要因としては、図-3のように海浜沿いに立地する建築物が背山の稜線を分断しており、

その存在が認識されにくかったためや、図-4のように海域方向に存在する巨大な構造物に意識が向けられたためスケッチに描かれなかったと推察する。

また、人工要素において相対的に要素別出現率が高いものは「突堤」(50.0%)、「護岸」(37.2%)、「道路」(26.5%)である。これは、図-5のように汀線、砂浜といった自然要素への眺めの中に長大な人工構造物が際立ち、大きな影響を与えたため原風景に多く出現したといえよう。

4. まとめ

本研究で得られた知見をまとめると、原風景が形成された海浜とスケッチの同一性の高さから、原風景は現実の海浜空間から多大な影響を受けていることが明らかとなった。また、このような原風景は、汀線、砂浜といった自然要素がよりどころとなって形成されているものの、背山、潮見坂、離れ松といった要素は現地に存在するにもかかわらず、原風景に出現しにくい要素であることを把握できた。

【補注】

- 1) 文献1において、「被験者(大学生)の原風景は約9割が実体験に基づいて形成されている」ことを把握した。
- 2) 文献2において、自然海浜の景観要素として14要素を抽出したが、本研究では「丘」「集落」の2要素が対象海浜において存在しなかったため、12要素とした。

【参考・引用文献】

- *1 三溝裕之ほか5名：「大学生の原風景からみた自然海浜の景観要素とその変容に関する研究」、日本沿岸学会研究討論会・講演概要集、No. 9、pp. 46～47、1996. 5
- *2 喜多川智一ほか3名：「自然海浜の景観構成に基づく人工海浜の景観設計に関する研究」、日本沿岸学会研究討論会・講演概要集、No. 8、pp. 12～13、1995. 5